

平成29年9月11日  
 東部農林振興センター 雲南事務所 農業普及部

標 題 豪雪地帯飯南町の冬でも野菜栽培を！ 雪下野菜の取り組み開始。

(ダイジェスト)

飯南町では新たに雪下野菜に取り組むことになりました。7月に新潟県にて先進地事例調査を実施し、栽培方法の検討を行いました。今年度は5品目を7名の生産者で試作することとなりました。8月中旬からは種が始まり2月下旬に収穫予定です。販路は広島方面の量販店で、期間限定ブースを設置し差別化販売予定です。

飯南町では、冬期は雪深く通常の農作業は不可能です。また、施設についても倒壊の恐れがあり、一部を除き使用されていません。そのため、冬期は野菜の出荷がほとんどなく、生産者も他産業に従事するなど農外収入に頼っている状況です。併せて、冬期の産直施設も品目が少なく集客に苦戦しています。

そこで飯南町農林業振興協議会特産部会（町、JA、普及部各担当）では、他の豪雪地帯の事例を参考に今年度から雪下野菜の検討を行うこととしました。7月には新潟県高冷地農業研究センターにて、甘味が強いという利点や品目品種や管理方法、保存、雪の扱い方について先進地事例の聞き取り調査を行いました。その後、関係者で協議を重ね、今年度は以下の5品目で試作を行うこととしました。

**○雪下野菜取り組み品目 キャベツ、にんじん、だいこん、ほうれんそう、コールラビー**

生産者は雪でも比較的管理の行いやすい圃場を有する7名を選定しました。9月1日に、生産者を集めての栽培研修会を実施し、品目別有望品種や管理作業と、農薬の適正使用について説明を行いました。併せて、JAが最初の販路として、広島県内量販店で期間限定ブース設置し、甘味の強い野菜として差別化販売を行う予定についても説明しました。

9月7日には、播種状況確認として1回目の現地巡回を実施しました。にんじんは既に発芽が始まっていました。新潟県での事例調査時に雪が降るまでの管理が重要と教わったので、特産部会では連携し、積雪まで定期的に巡回指導を実施する予定です。



発芽後の管理について指導



研修生も一緒に学んでいます